



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 清和会第2ワールドナーシングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

第 17 回ドイツ軍人慰霊祭開催

慰霊の辞を述べるグ大佐



参加者一同の集合写真



11月13日(日) 船橋市習志野霊園において第17回ドイツ軍人慰霊祭が開催された。汗ばむほどの好天に恵まれ、開会前には上空に陸上自衛隊機が習志野練習場に向けて次々と飛来し、落下傘部隊降下練習のスペクタクルを展開。これはまさに「日独交流 150 周年」に当たるこの日の慰霊祭と菩提樹植樹祭への願ってもない贈物となった。11時からの慰霊祭には昨年続きドイツ大使館武官ヨアヒム・グトー海軍大佐が臨席、宗宮会長以下当協会役員及び会員、来賓に自衛隊第一空挺師団長代理赤羽敏夫第一科長、船橋市市長公室羽鳥賢二国際交流室長、習志野自治会縄田豊宏会長、習志野第九合唱団、一般参加者列席のもと、ドイツ国歌斉唱、慰霊の辞、御霊紹介、軍人葬送歌、献花と一連の儀式が厳かに、しかし和やかに執り行われた。宮本習志野市長よりは電報で慰霊の辞が寄せられた。開会前には石崎申之氏墓所参拝、日本軍人及びロシア軍人慰霊碑への献花が行われた。今回習志野第九合唱団に女声コーラスも参加「野バラ」が歌われた。全員記念写真撮影の後習志野駐屯地講堂に移動、12時15分より直会が行われた。宗宮会長挨拶、来賓としてヨアヒム・グトー海軍大佐、赤羽敏夫第一科長、縄田自治会会長が挨拶され、慰霊祭からご家族同伴で臨席された臼井名誉会員が献杯の音頭を取られ、あと参加者弁当を開き懇談に入った。懇談中成田久江会員が人権擁護委員としての功績により藍綬褒章を受章されたことが紹介された。13時15分この日一日司会進行を務めた平野事務局長の閉会の言葉で今年の慰霊祭も滞りなく終了した。

慰霊祭におけるご挨拶

ドイツ大使館国防武官
ヨアヒム・グトー

本日皆様と共に、ドイツ人兵士の慰霊祭を再び実施できますことは、私にとり栄誉でありますとともに、大きな喜びでもあります。二週間前に、我が国の大統領が来日し、四国の板東を訪問しましたが、私も同行致しました。大統領は板東俘虜収容所で亡くなった兵士達のため献花をしました。この訪問に先立って、大統領一行は鳴門市にあるドイツ館を視察し、大歓迎を受けました。ここ船橋に参りますたびに、私はいつもこれと同じ印象を受けます。

この地で亡くなったドイツ人兵士の為に、千葉県日独協会の皆様のご尽力され、深い共感の思いをお示しくございましたことに、心より感謝申し上げます。本日の慰霊祭は、戦争と暴力の犠牲となったすべての人々に捧げられるものであり、平和な未来を願うものでもあります。

さらには、東日本大震災で犠牲となった方々にも思いを馳せたいと存じます。東北の人達が新しい未来に向かって、心の平安を取り戻し、力強い一歩を踏み出して行かれますことを心より願っております。

ご静聴ありがとうございました。

訃報

当会の尾田幸雄理事には、9月3日(土)に胃癌の為、逝去されました。享年80歳。同氏は、当会発足の1996年以来の理事として、当会の発展に寄与されました。また、お茶の水女子大学名誉教授、(社)日本弘道会副会長として活躍されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

—今後の主な催し物案内—

1. クリスマス会

今年も下記のようにクリスマス会を開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

- ・日時・・・12月20日(火) 6時~8時 p.m.
- ・場所・・・「洋食亭ブラームス」(047-486-1539) 京成「八千代台」駅東口(成田に向かい右側)「ユアエルム」(ショッピングセンター) 2階(改札口から廊下接続)
- ・会費・・・4000円(2時間飲み放題を含む)

◎12月13日までに同封のハガキにて出欠のご連絡をお願い致します。

2. 第6回ボトルシップ研究会

日時:12月17日(土) 15:30~17:30

場所:船橋市中央公民会 第9集会室

テキスト「ドイツ兵士の見たニッポン」139~218頁

3. 秋季ドイツ語勉強会を終わって

平尾名誉会長に講師をお願いしました勉強会は11月17日に終了。先生の懇切丁寧なご指導と、毎回先生が持参されたシュトルム等の有名な詩を大河内ロスウイータ会員に朗読して頂き、18名の参加者は学校の教室とは違うドイツ語勉強の楽しさやドイツ語の詩の美しさを知りました。最終日の謝恩会では今後共この勉強会を続けてほしいとの強い要望が出され、平尾先生も快諾されました。皆様、次回の講座もご期待下さい。

ドイツ人少年少女、被災地旭市を視察

ブレーマーハーフェンからイマヌエル・カント・レアルシューレのドイツ人生徒2名(14歳女子リザ・ワルターと15歳男子生徒マルビン・マークヴァルト)がイェンス・カーステンセン先生に引率され、カメラマンとともに来千した。目的は、大震災の惨禍の状況視察と日本の同年代の被災者の当時の行動等を知る為。当会はドイツ大使館からの要請で、8月16日(火)通訳の(公財)日独協会職員タベア・カウフさんと共に大被災地の旭市飯岡に案内、同地在住の大友勝廣会員(旭市観光協会会長)の協力により、海岸近くに立地し被災した飯岡中学校の梶山定一校長先生と男子生徒2名と共に2時間にわたり被災体験を聞き意見交換を行なった。当日二人の生徒は避難所にいたが、津波は来ないと考えて帰宅した直後大津波が襲来し、必死の思いで一命は取り留めたという。学校の津波被災状況を見学後、大友会員の車で市内の被災場所を視察したが、被害の生々しい状況と説明にドイツ人生徒たちは大きなショックを受けていた。彼らの行動を追ったドキュメント・フィルムは次のURLで見ることができる。<http://iks-medien.de/?p=2189> および YouTube の

<http://www.youtube.com/watch?v=t2za2J9YrL8>

(宗宮会長、橋口副会長、坂本常任理事が同行)

●「ドイツフェスティバル」と「ドイツ統一記念日レセプション」

10月23日、東京・広尾の有栖川宮記念公園とドイツ大使館を会場に日独交流150周年のハイライト・イベント「ドイツフェスティバルー絆をつなごうドイツと日本」が開催され、クリスティアン・ヴルフ大統領と皇太子による菩提樹の植樹があったり、ドイツ企業のテントやビール販売の店も出て約2万人の参加者で賑わった。宗宮、橋口、坂本、須古、金谷の各氏が参加。又、同日夕刻には大使公邸において「ドイツ統一記念日レセプション」が催され、当会会長も招待客のひとりとなった。今年は何の記念行事でも祝辞とともに東日本大震災に対する哀悼のことばが述べられ、ともすると暗くなるどころ、ドイツ開催のサッカー女子ワールドカップでなでしこジャパンが活躍したことに言及され聴衆の心を和ませたが、当日の大統領の挨拶でも触れられた。

●菩提樹植樹祭

11月13日はドイツ軍人慰霊祭後、会場を船橋市飯山満町の阿弥陀山清房院に移し、当会として院主の林静誠顧問にお願いし、日独交流150周年記念菩提樹の植樹祭が行われた。千葉県日独協会はドイツ大使館より全国で一番多い30本の寄贈を受け、県下12箇所に引受けていただいた。先に配布しました10月20日付「日独交流150周年記念菩提樹植樹先リスト参照。

「・・・私の家の裏山を阿弥陀山と称し1000年前平将門の子孫が葬られたところと言われております。往時大木がありましてその根本より阿弥陀仏が出現したと伝えられて居ります。私の家は天明2年の建築とされて居りますが将門将軍に関係のあるものとして当時の戦道具と古銭が保存されて居ります。この様な事を奇縁として・・・私宅の開放を決意した次第であります。」

これは「日の本阿弥陀如来像建立について」と題する林静誠顧問のご両親の趣意書の一部である。グトー海軍大佐は林顧問の築200年のお宅でお茶の接待を受け、特にルバング島から帰還したし小野田少尉が最後まで身につけていた「蛮刀」の披露などを受けて、植樹場所の阿弥陀山で植樹祭に臨んだ。当会会員の参加10数名、清房院の職員、同町の皆さんが清房院の法被姿で参加、儀式後全員で記念写真。大佐は阿弥陀山の歴史的、日本的雰囲気と法被姿の男女がすっかり気に入った様子で、林顧問の節分豆まきへの招待を喜んでいた。阿弥陀山清房院へのアクセスはJR津田沼駅より千葉病院行きのバスで終点下車、徒歩10分、最寄駅は東葉高速線「飯山満」駅、徒歩7分。

(なお、御宿に於ける菩提樹植樹祭などについては、次号で報告致します。)

ドイツ旅行委員会からのお知らせ

先月ご案内しました「ドイツ旅行」はまだ残席がありますので奮ってご参加下さい。お待ちしております。